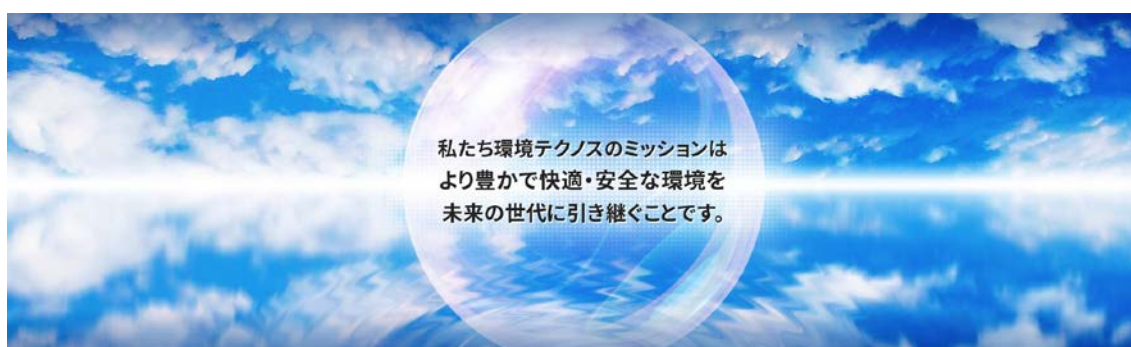


環境経営レポート

2024 年度版

運用期間：2024 年 4 月～2025 年 3 月



2025 年 6 月 30 日 発行

目 次

1. 代表者挨拶	2
2. 経営理念	2
3. 組織の概要	3
4. 環境関連活動の主な経歴	6
5. 実施体制	14
6. 環境経営方針	15
7. 環境経営目標	16
8. 環境経営計画	17
9. 環境経営目標の実績	18
10. 次年度及び中期環境経営目標	22
11. 環境関連法規等の遵守状況、訴訟等の有無	22
12. 代表者による全体の評価と見直し・指示	23



1. 代表者挨拶

環境テクノス株式会社は、1973 年当時、激甚な公害問題に市民や企業、行政が悩まされていた北九州市において、創業者の「世のため人のために」という願いを実現するために創業された会社です。2023 年 12 月に創業から 50 年を迎えましたが、創業時から続く環境測定・分析業をはじめ、環境調査や環境アセスメント、環境に関する課題解決や苦情対応などのコンサルタントなど社会の変化に対応し、常に環境分野において人々の役に立つことを使命として事業を展開しております。

一言に環境に関する課題と申しましても、公害問題からはじまり、廃棄物や生物多様性、地球温暖化など色々と形を変えながら、今では世界的な課題となっています。これらの変化に対応するためには、時世を読み取り対応する技術者の育成が必要不可欠です。これからも、変化をおそれず、環境保全に必要な価値ある情報・技術を提供することができる人の育成、技術の伝承を行い、お客様のご要望に応えてまいります。

お客様をはじめ社会に貢献できる企業であり続けるために、今後とも努力してまいります。

代表取締役社長 鶴田 直

2. 経営理念

私たちは環境技術を高め、安全・安心な企業づくり、社会づくりに貢献します。

(行動方針)

- ・ 環境コンサルタントとして、誇り、使命感をもって行動します。
- ・ 厳格な品質管理を行うとともに、顧客の課題に対し迅速に対応します。
- ・ 真摯に顧客に対応することにより、お客様との信頼関係を築いていきます。
- ・ 社員がやりがいと生きがいを持てる会社になります。



シンボルマークは Clean & Safe と Customer Satisfaction の頭文字をシンボライズしたもので、シンボルカラーの青は澄んだ水・大気、緑は調和・安全・緑の大地を示しており、当社の活動全体を象徴しております。



3. 組織の概要



事業所名		環境テクノス株式会社
代表者名		代表取締役社長 鶴田 直
所在地	本社	〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町2番4号
	福岡支店	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1丁目10番23号
	大分支店	〒870-0938 大分市今津留2丁目1番27号
	山口営業所	〒759-0211 山口県宇部市西宇部南3丁目3-2
	長崎営業所	〒859-3213 長崎県佐世保市権常寺町1198-2

統括管理責任者	神野 亮太
連絡担当者	平野 晃一
TEL	093-883-0150
FAX	093-883-0701
E-mail	kankyo@kan-tec.co.jp
URL	https://www.kan-tec.co.jp/

事業の概要	環境に関する総合コンサルタント (環境測定・分析、環境アセスメント、環境計画、研究・開発、エンジニアリング、メンテナンス)	
事業年度	4月1日～翌年3月31日	
資本金	40百万円	
従業員数	63人	
床面積	本社：1,417m ²	倉庫：476 m ²

当社は、上質な情報、何事にも真摯に取り組む社風、環境分析・調査業務等の技術的レベルの高さとともに、気軽に相談できる環境総合コンサルタントとして幅広い環境分野で業務展開を図っています。

会社資格	・ 建設コンサルタント業 : 建 05 第 6220 号(建設環境部門) ・ 測量業 : 第(6)-23590 号 ・ 計量証明事業(濃度) : 福岡県 第 12 号 ・ 計量証明事業(音圧レベル) : 福岡県 第 17 号 ・ 計量証明事業(振動加速度レベル) : 福岡県 第 7 号 ・ 作業環境測定機関 : 福岡労働基準局 第 40-6 号 ・ 土壌汚染対策法指定調査機関 : 2003-7-3014 ・ 建築物飲料水水質検査業 : 福岡県 4 水第 48 号 ・ 産業廃棄物収集運搬業 : 福岡県 第 4000027250 号 ・ 特別産業廃棄物収集運搬業 : 福岡県 第 4050027250 号
------	--

有資格者	《 コンサルタント関連 》 ・ 博士 : 1 名 ・ 技術士(総合技術監理) : 1 名 ・ 技術士(建設環境) : 3 名 ・ 技術士(環境) : 4 名 ・ R C C M : 3 名 ・ 測量士 : 4 名 《 分析関連 》 ・ 環境計量士 : 12 名 ・ 作業環境測定士 : 10 名 ・ 臭気判定士 : 2 名 ・ 土壌汚染調査技術管理者 : 4 名 ・ 公害防止管理者 : 18 名 ・ 一般建築物石綿含有建材調査者 : 2 名
------	---

快適かつ安全な社会環境の実現をめざし、環境総合技術コンサルタントとしての社会的責任を果しつつ、あらゆる機会を捉えて自然環境の保全や循環型経済社会の実現のために活動を展開し、地域環境、地球環境の保全に取り組んでいます。

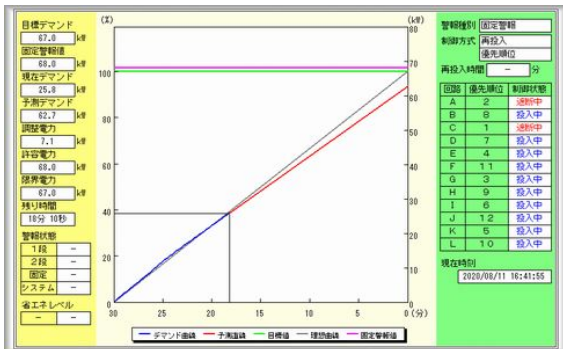
具体的には、以下の産・官・学・民（NPOなど）と連携し、国際協力、普及・啓発活動などに積極的に参加し貢献しています。

加入団体	・（一社）日本環境アセスメント協会	： 九州・沖縄支部・運営委員
	・（一社）日本環境測定分析協会	： 九州支部・運営委員
	・（一社）福岡県環境計量証明事業協会	： 会長
	・（公社）日本作業環境測定協会	： 九州支部・運営委員
	・（公社）日本分析化学会	
	・（一社）日本音響学会	
	・九州環境エネルギー産業推進機構(K-RIP)	： 理事
	・北九州市環境産業推進会議	
	・北九州環境ビジネス推進会(KICS)	： 副代表幹事
	・（公財）北九州国際技術協力協会(KITA)	
	・テクノミクス北九州(異業種技術交流研究会)	： 幹事
	・北九州商工会議所	： 化学・エネルギー部会 副部会長
	・北九州ESD協議会	： 副理事長
	・（一社）ECO技術協会	： 業務執行理事

4. 環境関連活動の主な経歴

1999 年 1 月	ISO 14001:1996 認証登録（本社）
2003 年 1 月	環境目標に有益な影響（環境貢献）を加え、活動開始
2006 年 1 月	ISO 14001:2004 認証登録（本社、ひびき研究所）
2012 年 7 月	省エネ対策（省電力型照明設備導入、節水型トイレ導入） ・電気使用量削減、水使用量削減  
2012 年 8 月	省エネ対策（ガラス断熱処理、デマンド監視サーバ導入） ・電気使用量削減  
2012 年 9 月	省エネ対策（省電力型空調機導入） ・電気使用量削減 
2012 年 9 月	日本環境共生学会にて「国内クレジット」等の論文発表を行いました 

2012 年 10 月	「環境テクノス・ビジョン 2020」を策定しました ・始動！ 環境コンシェルジュ ～「環境+アジア」で頭に浮かぶ会社を目指す！ 
2013 年 3 月	前社長（当時社長）が外務省の依頼を受けて中国上海市及び重慶市で講演を行いました ・日中で手を携えて青い空を作ろう ～日本の経験と環境保護の技術 
2013 年 11 月	中国南京で行われた「中国国際環保産業博覧会」に福岡県ブースの1社として出展し、社長（当時副社長）が環境測定分析精度の重要性について講演を行いました 

2014 年 1 月	省エネ対策（屋上断熱塗装） ・電気使用量削減 																																							
2014 年 4 月	「エコドラ北九州プロジェクト」に参加し、エコドライブ活動の推進を開始しました 																																							
2014 年 5 月	インドネシア・スラバヤ市における市民のための安全な飲料水供給と水質改善事業に参加しました （北九州市、JICA、IGES）																																							
2014 年 12 月	日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ 2014」に、当社のエコ製品等を中心に展示しました																																							
2015 年 1 月	省エネ対策（空調機デマンド制御） ・電気使用量削減  <table data-bbox="1112 1706 1232 1964"><tr><th>回路</th><th>優先順位</th><th>制御状態</th></tr><tr><td>A</td><td>2</td><td>過剰中</td></tr><tr><td>B</td><td>9</td><td>投入中</td></tr><tr><td>C</td><td>1</td><td>過剰中</td></tr><tr><td>D</td><td>7</td><td>投入中</td></tr><tr><td>E</td><td>4</td><td>投入中</td></tr><tr><td>F</td><td>11</td><td>投入中</td></tr><tr><td>G</td><td>3</td><td>投入中</td></tr><tr><td>H</td><td>9</td><td>投入中</td></tr><tr><td>I</td><td>6</td><td>投入中</td></tr><tr><td>J</td><td>12</td><td>投入中</td></tr><tr><td>K</td><td>5</td><td>投入中</td></tr><tr><td>L</td><td>10</td><td>投入中</td></tr></table>	回路	優先順位	制御状態	A	2	過剰中	B	9	投入中	C	1	過剰中	D	7	投入中	E	4	投入中	F	11	投入中	G	3	投入中	H	9	投入中	I	6	投入中	J	12	投入中	K	5	投入中	L	10	投入中
回路	優先順位	制御状態																																						
A	2	過剰中																																						
B	9	投入中																																						
C	1	過剰中																																						
D	7	投入中																																						
E	4	投入中																																						
F	11	投入中																																						
G	3	投入中																																						
H	9	投入中																																						
I	6	投入中																																						
J	12	投入中																																						
K	5	投入中																																						
L	10	投入中																																						

2015 年 2 月	北九州市環境首都検定の上級編にグループ受験し、企業・団体部門で「成績最優秀賞」を受賞しました   ていたんトロフィー
2015 年 7 月	「環境分析における“ものさし”（溶出試験用土壌標準物質）の製造」において、独創的な製品や技術、サービスを提供する優れた企業として「北九州オンリーワン企業」に認定されました 
2015 年 12 月	省エネ対策（社用車を省燃費車へ切り替え開始） ・ガソリン使用量削減
2016 年 5 月	G7 伊勢志摩サミットのカーボン・オフセットへの協力として、自社で所有する国内クレジット 50 t を無償提供しました  

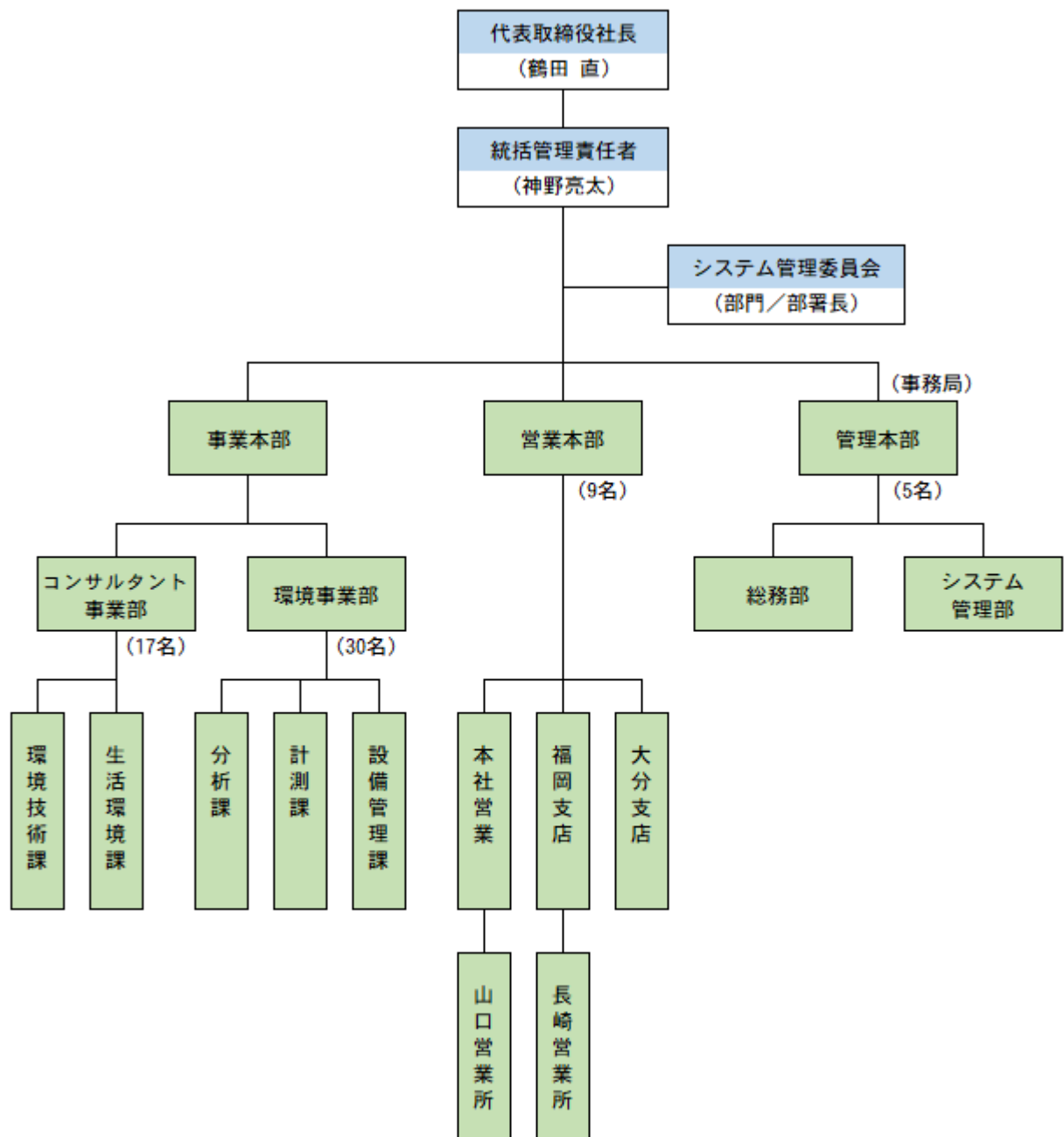
2016 年 6 月	前社長が中国大連市より「第五届十大環保人物」として表彰されました 第五届十大環保人物 鶴田 暁 日本環境技術諮詢株式会社 社長  “老驥伏枥，志在千里。他是成功的商人，致力環保五十余年，他在日本在中國環保行業享有極高的威望和影響力；他是不老的使者，七十七歲高齡的他，仍在為中日“大連環境示範區”開發調查項目、中日“大連示範城市”建設等項目的合作，不遺余力，全情投入。”
2017 年 11 月	共同開発を行った「環境配慮型新素材」の特許を登録しました 土と植物からできたハイブリッド天然素材です 
2018 年 6 月	省エネ対策（水道水を貯水槽式から直送式に変更） ・電気使用量削減
2020 年 2 月	エコアクション 21 認証登録 
2021 年 4 月	2021 年の春の叙勲において、前社長が「旭日単光章」を受章しました 『永年にわたる北九州市での環境産業推進に大きく貢献した功績』に対して叙勲されることとなりました  

2021 年 4 月	省エネ対策（大型冷蔵庫更新） ・電気使用量削減 
2021 年 7 月	大分支店移転（空調機、照明の規模縮小） ・電気使用量削減
2021 年 11 月	北九州市のSDGs登録制度第1次募集にて、当社は「北九州SDGs登録事業者」として登録されました SDGs達成に向けた重点的な取り組みとして「太陽光発電の導入」「環境改善や技術力向上に関するセミナーの受講を通して、持続可能な社会実現の支援ができる技術者の育成」「環境改善提案により、環境と経済の両立を図る支援を行う 特に省エネ診断等の地球温暖化に関する事業に力を入れていく」ことなどを宣言しています 
2021 年 1 月	省エネ対策（非常灯の一部をLED化） ・電気使用量削減 

2022 年 3 月	2021 北九州 SDGs 未来都市アワードにて、当社が取り組む活動が SDGs の達成に寄与し他の模範になると認められ、SDGs 賞として表彰されました 
2022 年 11 月	本社の非常灯(48 本)及び CCFL 照明(386 本)を LED 化しました。 今回の工事により、本社照明設備の 99%が LED となりました 
2023 年 3 月	本社倉庫屋上に太陽光パネル(24kW)を設置しました 

2023 年 2 ～ 5 月	ハイブリッド車、電気自動車の導入を進めています 2 月に E V、5 月に P H E V を新たに導入しました 
2024 年 5 月	電気自動車を増車し、E V ・ P H E V の充電用車庫を設置しました 

5. 実施体制



※ 認証・登録範囲： 全組織・全活動

6. 環境経営方針

基本理念

澄み切った青空と清らかな水、豊かな大地にあふれる緑、環境テクノス株式会社のテーマは誰もが生きていることに感動する「快適で健康な環境」を創ることです。

環境先進都市、北九州市に立地する当社は、環境総合技術コンサルタントとして企業の社会的責任を深く認識し、環境の保全に必要な価値ある情報、高品質のサービスを提供することによって環境貢献を推進します。

行動指針

1. 環境保全に必要な価値ある情報・サービスを提供するため、自らの技術力向上に努めます。
2. 顧客に対して、環境に配慮した提案を推進します。
3. 環境保全に関する持続的な改善を行い、汚染の予防に努めます。
4. 当社の事業活動、製品及びサービスにかかわる環境法令、条例及びその他の要求事項を遵守します。
5. 環境経営目標を設定し、それらを達成するためのシステムを実行します。
6. 環境経営の継続的改善を実施します。
7. 従業員に対して本方針を周知するとともに、適切な教育を徹底します。
8. 環境への取組を環境経営レポートとして一般に公開します。

1998年5月1日制定

2022年4月1日改定

環境テクノス株式会社

代表取締役社長 鶴田 直

7. 環境経営目標

当社は 1999 年に ISO14001 を認証取得し、18 年間にわたり認証を継続してまいりました。

その後、2019 年よりエコアクション 21 の運用を開始し、2020 年に認証登録を行いました。

これまでの取組の中において、省電力型設備への更新、遮熱対策、省エネ車両への更新、節水型設備への更新などを行い、日常的な省エネ活動やリサイクルの推進などを行っています。しかしながら、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量に関しては受注業務の内容によって影響を受けるため、日常的な管理活動を継続しつつ、更なるエネルギー使用量の削減について検討を進めてまいります。

一方、有益な活動に関しては 2003 年より全部門部署がそれぞれの特色を生かした効果的な成果が期待できる目標を設定し、全社で取り組みを行っております。

高品質な環境関連サービスを提供するため、自らの技術力向上に努めるとともに、お客様に対して環境保全に必要な価値のある情報を提供してまいります。

項 目	単位	(基準値)	2024 年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	229, 096	165, 000
産業廃棄物排出量の削減	t	10. 0	8. 0
水使用量の削減	m ³	1, 013	870
自らが提供するサービスの改善	—	—	別途管理

- ・ 化学物質は試薬管理システム等により別途適正に管理を行う。
- ・ 電気の二酸化炭素排出係数は、九州電力(株)平成 27 年度の 0. 528kg-CO₂/kWh を用いた。
- ・ 基準値は、エコアクション 21 運用開始前の 2016～2018 年度 3 年間の平均値。

8. 環境経営計画

1. 電気使用量の削減

活動項目	責任者	評価	次年度
COOL BIZ, WARM BIZ 運動の推進	吉原	習慣化済	活動継続
エアコンの設定温度を定める (夏: 27℃、冬: 21~22℃)	神野	習慣化済	活動継続
エアコンフィルターの清掃実施 (年 2 回)	今林	習慣化済	活動継続
デマンド制御による空調機使用電力の抑制	平野	習慣化済	活動継続
昼休みの消灯 (休憩室を除く)	各部署長	習慣化済	活動継続
長時間席を離れる場合のパソコン電源 OFF	各部署長	習慣化済	活動継続

2. ガソリン使用量の削減

活動項目	責任者	評価	次年度
エコドライブ運動の推進	平野	習慣化済	活動継続
エコカーへの計画的な更新	吉原	全車完了	活動継続

3. 廃棄物排出量の削減

活動項目	責任者	評価	次年度
分別の徹底 (紙、かん、ペットボトル)	今林	習慣化済	活動継続
両面印刷、両面コピーの有効利用	各部署長	習慣化済	活動継続

4. 水使用量の削減

活動項目	責任者	評価	次年度
節水活動の推進 (流しっぱなしにしない)	諸藤	習慣化済	活動継続

5. 自らが提供するサービスの改善

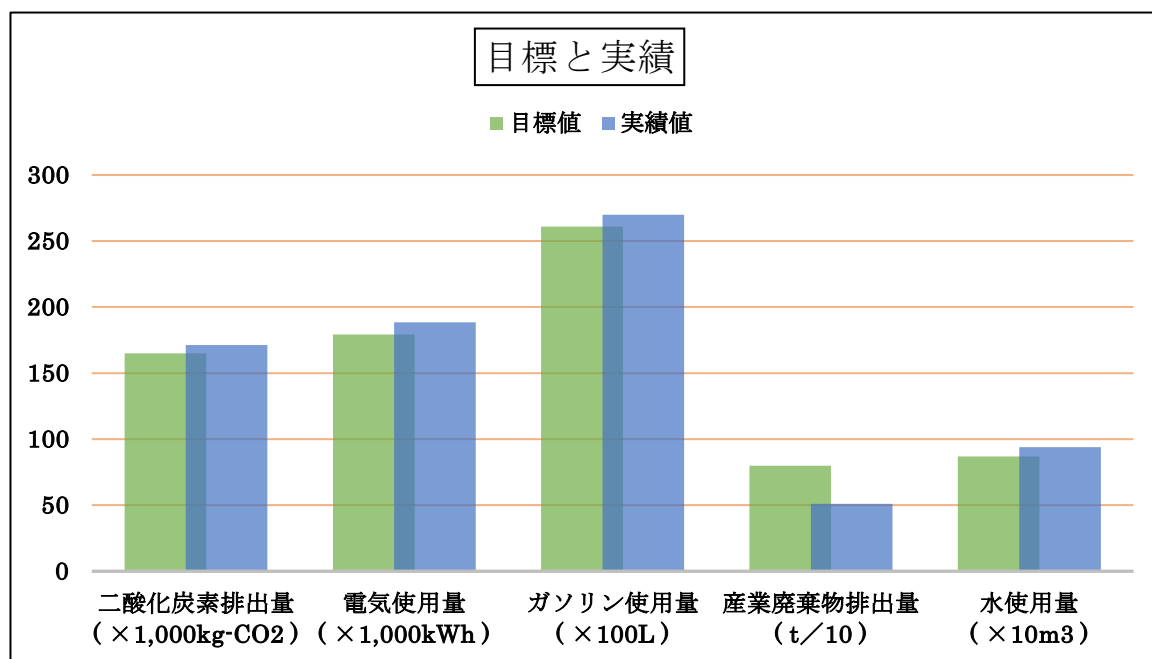
活動項目	責任者	評価	次年度
高品質な環境関連サービスの提供 (技術力向上)	各部署長	良好	活動継続
環境保全に必要な価値ある情報の提供 (提案)	各部署長	良好	活動継続

9. 環境経営目標の実績

2024年度の実績は以下のとおりであった。

項 目	単位	目標値	実績値	比率	判定
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	165,000	171,251	4%超過	×
電気使用量の削減	kWh	179,200	188,391	5%超過	×
ガソリン使用量の削減	L	26,134	26,998	3%超過	×
軽油使用量の削減	L	3,200	3,109	3%削減	○
産業廃棄物排出量の削減	t	8.0	5.1	36%削減	○
水使用量の削減	m ³	870	940	8%超過	×
自らが提供するサービスの改善	—	(別紙にて管理)			

・電気の二酸化炭素排出係数は、九州電力(株)平成27年度の0.528kg-CO₂/kWhを用いた。

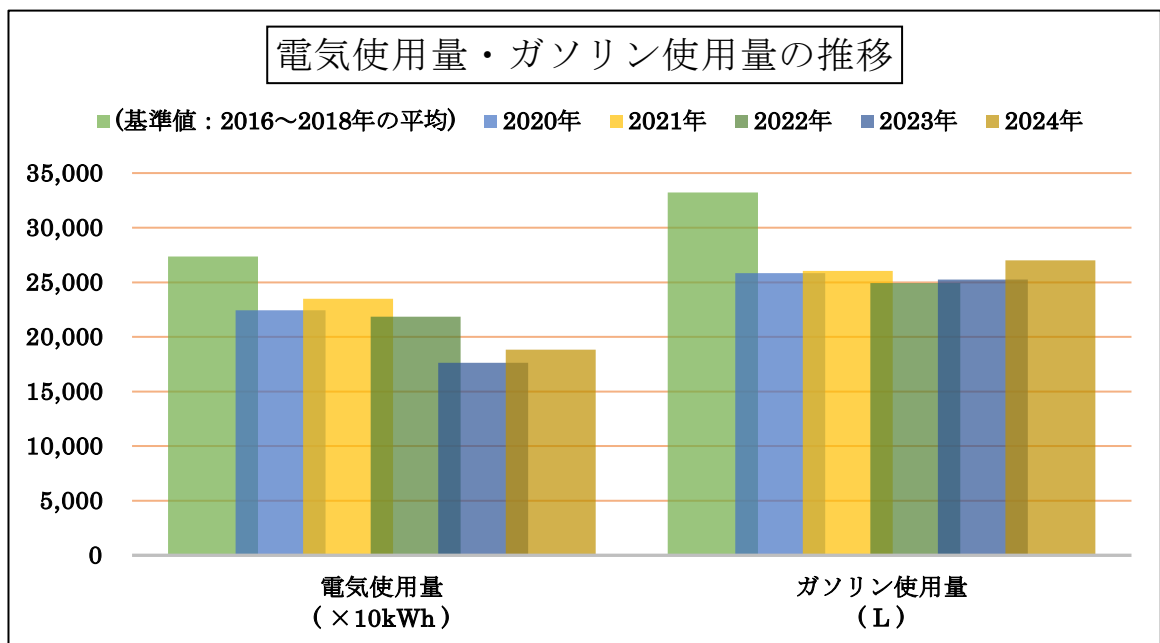
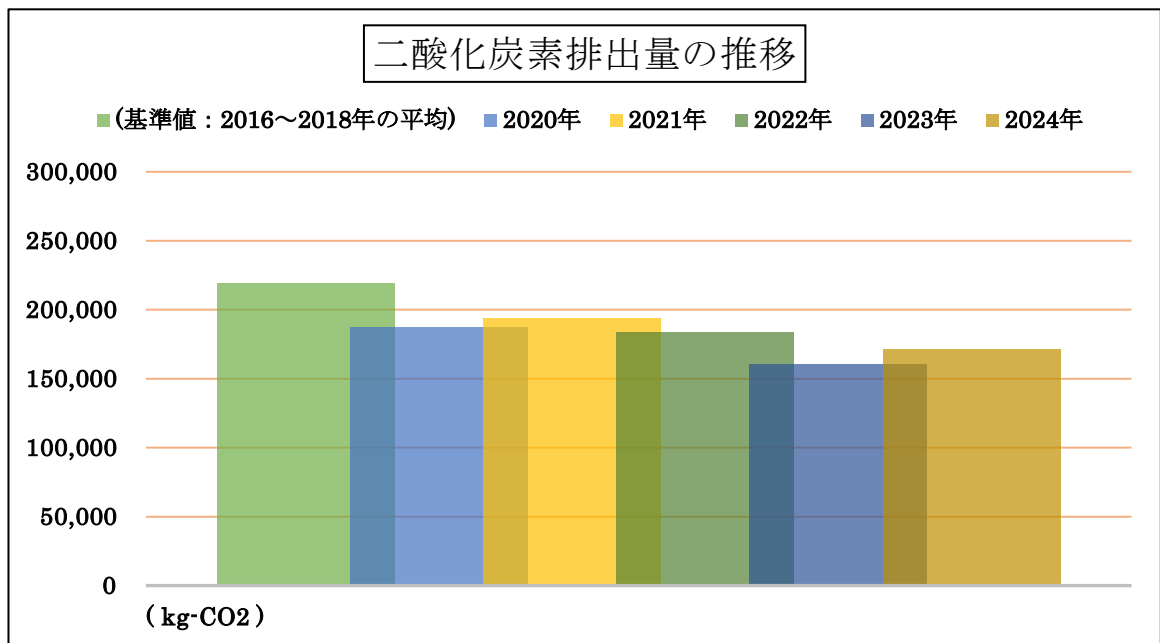


二酸化炭素排出量の削減

年度目標の 165,000kg-CO₂ に対して実績は 171,251kg-CO₂ であり、目標を超過してしまいました。

電気使用量に関しては、作業室の拡張、分析機器の増強、夏季の気温上昇に伴う空調機の稼働量増加などが影響し、前年よりも増加してしまいました。

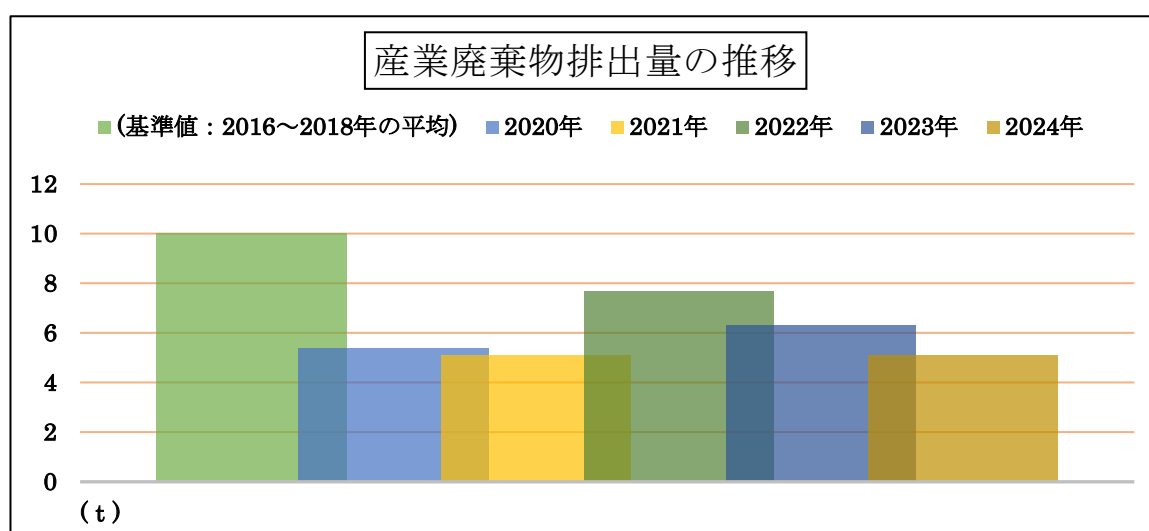
ガソリン使用量に関しても、エコドライブ活動を継続し、電気自動車も増車したものの、受注業務の関係で自動車走行距離が伸びてしまい、僅かですが増加してしまいました。



廃棄物排出量の削減

年度目標の 8.0t に対して実績は 5.1t であり、目標を達成しました。

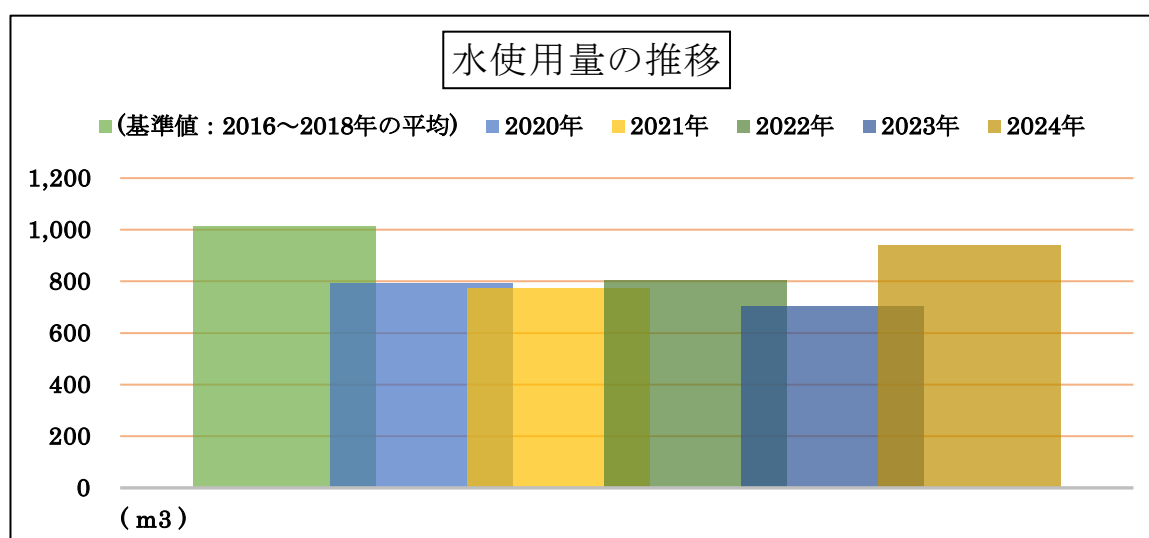
当社より排出される産業廃棄物の主となるものは、受注業務に伴って発生する機器からの廃液、分析サンプル、試薬の容器や分析廃液などとなっています。



水使用量の削減

年度目標の 870m³ に対して実績は 940m³ であり、目標を超過しました。

なお、当社の水の使用量は分析業務等の種類や数量によって影響を受けるため、産業廃棄物発生量と同様に受注業務の内容によって変動します。



自らが提供するサービスの改善

全部門が部署毎に年度目標を策定し、取り組みを行っています。

コンサルタント事業部門、環境事業部門では、高品質な環境関連サービスを提供するため、自らの技術力向上に勤め、業務の内容に応じて専門スタッフが共働し、あらゆる角度から検討を進めて、お客様に現実的で実効性のある環境改善のための提案を積み重ねています。

また、営業部門では、環境保全に必要な価値ある情報・サービスを提供するための機会を増やす努力を行い、管理部門では、技術部門が高品質のサービス提供ができるよう人材育成の支援を行っています。



2020 年度 建材中のアスベスト分析技能試験合格証



令和3年度 作業環境測定 精度管理優良賞
(平成27年度より連続4回表彰)

10. 次年度及び中期環境経営目標

次年度及び中期環境目標は以下のとおりです。

項 目	単位	(基準値)	2025 年度	2026 年度	2027 年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	229,096	163,350	161,717	160,100
産業廃棄物排出量の削減	t	10.0	8.0	8.0	8.0
水使用量の削減	m ³	1,013	860	850	840
自らが提供するサービスの改善	—	—	別途管理		

- ・ 化学物質は試薬管理システム等により別途適正に管理を行う。
- ・ 電気の二酸化炭素排出係数は、九州電力(株)平成 27 年度の 0.528kg-CO₂/kWh を用いた。
- ・ 基準値は、エコアクション 21 運用開始前の 2016～2018 年度 3 年間の平均値。

11. 環境関連法規等の遵守状況、訴訟等の有無

環境関連法規等については、環境法令管理システム、官報、公報などにより、随時最新情報を入手しております。

環境関連法規制等一覧及びそれらの遵守状況を確認した結果、下水道法、水濁法、毒劇法、廃掃法、消防法、フロン排出抑制法等、環境関連法規制等への違反はありませんでした。

また、関係当局からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等ありませんでした。



12. 代表者による全体の評価と見直し・指示

本年度は二酸化炭素排出量及び水使用量の削減について、目標を達成することができませんでした。

近年、分析機器の増強等により本社の電気使用量が増加する要因が増えている状況ですが、本年度については作業性及び品質向上のため作業室の拡張も行いました。また、夏季の気温上昇に伴って空調機の稼働量が増えたこともあり、電気使用量が目標を超過する結果となってしまいました。

ガソリン使用量の削減対策としてはエコドライブ活動を継続しつつ、電気自動車やハイブリッド車の増車や更新なども継続しておりますが、本年度は受注業務に関係して車両の走行距離が増えてしまった為、使用量も目標を超過してしまいました。

産業廃棄物の排出量につきましては、通常の業務に起因するもの以外には特に目立つものはなく、目標を達成しておりますが、倉庫の建設も含め、社内のレイアウトに若干の変更があるため、産業廃棄物保管場所については、より適切な管理ができるように場所変更の検討も含めて改善指示を行いました。

自らが提供するサービスの改善につきましては、全社で積極的な取り組みを行っており、各部門部署での実施状況の評価においては、責任者が今後の課題や問題点を更に明確にするよう改善致しました。

太陽光パネルの導入により電気使用量の削減効果が大きかった 2023 年度の実績に基づき 2024 年度以降の環境経営目標について見直しを行い、1 年間取り組みを行ってきました。今年度はいくつかの要因により結果的には目標を達成できませんでしたが、今後も新たな目標に向かって進んでまいります。

各部門部署の特色を生かした活動を策定し、お客様をはじめ、社会に貢献できる取り組みを継続して行く所存です。